

## はじめに

どういう訳かは知らないが、京都大学理学研究科・理学部数学教室には旧制大学卒業生の同窓会はあったが、旧制および新制大学両方の卒業生を対象とした会は作られなかった。「同窓会のようなものが無いのは、いかにも京大数学らしい」という声を聞くことがあるが、私もその通りだと思わなくはない。しかし「有って悪いか」と問えば、そんなことは決してないとも思う。

「今の時を外したら、もう同窓会は作れない」との指摘に応じて、西田吾郎さんが自分を中心となって同窓会設立活動を始めようことを決意した。しかし、その決意の1ヶ月余り後に彼は逝去した。そのため私、井川が後を継ぐこととなってしまった。さいわい数学教室教授会合が同窓会設立を支援してくださり、また多くの方々のご協力を得て設立総会を見通せる段階にまでくることができた。

設立行事に参加くださる皆様に、数学教室で学んだ時代を思い起こして頂く手掛かりとなるような冊子を準備できたらと考え、私がお願いできる数名の方に数学教室に関わる文章の執筆をお願いした次第である。したがって、お願いした方々の年代には極端な偏りがあるが、お読み下さる皆さまにお許し頂くほかはない。同窓会が設立されれば、会誌を定期的に発行することになるであろう。そこでは様々な年代の方の文章が掲載されることを願っている。今回収録の三木良一氏と松本和一郎氏の文章は、会誌が定期的に発行されることを前提とした連載ものの第一回分である。ということは、両氏の連載が終了するまでは会誌を発行し続ける責務を負ったことになる。

今回収録の文章は、太平洋戦争の始まりから敗戦にいたる時代、そして戦後のとてつもない混乱と社会が急激に変化した時代に生き、大学制度も混乱しながら根本的に変わっていく中で京大数学教室で学ばれた方々のものと、その後約20年余を経ていわゆる大学紛争時代に学ばれた方々のものである。数学の学びの窓を通してそれぞれの時代が描き出されたかけがえのない文章である。

この小さな冊子を京大数学同窓会誌準備号あるいは第0号として、多々あるであろう不十分な点をお許しいただくと共に、これから同窓会本体とともに会誌も皆さまに育て頂きたいようお願い申し上げます次第である。

終わりに、執筆くださいました皆さま、また中井氏の文章の転載をお認め下さいました海洋出版株式会社にお礼申し上げます。

京大数学同窓会準備会

代表